

操作マニュアル

Jubilee Preamp



TUBE PREAMPLIFIER

JUBILEE

OCTAVE

はじめに

私は、あなたがOCTAVE製品を選んでくれたことについてのお礼と、Jubilee Preampを購入した事へのお祝いの言葉を、ここに延べたいと思うのです。

ここ、カールスバートにある我々の本社、正にドイツのシュバルツバルト(黒い森)の端にあります。我々は20年以上にわたる長期間、高品質なハイファイ装置を設計・製造してきました - 全く文字通りに - 永年にわたる、音楽を享受する喜びをあなたに提供することができます。

今日のスピーカーと、高解像度再生可能なソースコンポーネントは、アンプへの要求が非常に高いです。

その結果、アンプの音質を改善するためには、以前にもましてより大きな技術的な革新のレベルを必要とします。

OCTAVEは、後年にわたってアップグレード可能な回路デザインの開発を専門としており、ハイエンドのチューブアンプ設計分野の世界的リーダーとして、近年にわたって評判を得ました。

長年の我々の経験は、アンプ技術における新機軸と同時に起こりえるであろう副作用への徹底的な理解のおかげで、OCTAVEは数年前には製造が不可能であるか、もしくはあまりに製造コストが高価すぎて製造ができないようなレベルの製品を、信頼性と音楽性の品質を高いレベルで兼ね備えた製品として提供できるようになりました。

私は、あなたがOCTAVEアンプで、素晴らしい音楽と多くの時間を楽しんでいただけることを願います。



Andreas Hofmann
Chief Designer and Owner of OCTAVE Audio

目次

	Page
感謝の辞	2
目次	3
1. はじめに	
1.1. OCTAVE アンプが特別な理由.	4
1.2. Jubilee Preamp の説明	5
2. 安全予防措置	
2.1. 設置の前に	6
2.2. 設置場所	7
3. 操作	
3.1. Jubilee Preamp の前面パネル	8
3.2. Jubilee Preamp の天板	9
4. 接続	
4.1. Jubilee Preamp の背面パネル	10
4.2. Jubilee 外部電源の背面パネル	12
5. 設置	13
6. 真空管	
6.1. 真空管レイアウト	14
6.2. 一般的な情報	15
6.3. 真空管の交換	15
7. サービスノート	
7.1. トラブルシューティング	16
8. スペック	
8.1. 各種寸法	18
8.2. 測定グラフ	20
8.3. 技術スペック	21

1. はじめに

1.1. OCTAVE アンプが特別な理由

技術について

真空管自体が高品質なサウンドを保証するものではありません。真空管の動作に最適な状況を与えるように設計された、革新的な電子機器で彼らをサポートすることによってのみ、一貫して高い音質を成し遂げることができます。

OCTAVEアンプは、独自の設計に基づく電源管理システムを備えています。この電子モニタリングと保護システムは、ソフトスタート機能と保護システムから成り立っており、電子制御モジュールは、我々のアンプのすべての機能を常時監視して、制御します。Jubilee Preampの電源をONに、内蔵されたソフトスタート回路は真空管のヒーターと動作電圧を緩やかに上昇させていきます。

もし、故障が起きたときには、保護システムは即座に電源スイッチを切るための動作に入ります。この知的な電力管理システムは、誤動作が検知されると保護回路が動作し稼働を停止します。出力ステージへの最適化された電力供給、精巧な電力供給回路と高い負荷安定性は、OCTAVEの銘が記されているいかなるパワーアンプ、プリメインアンプにおいても、スピーカーシステムが有する本来の特質を引き出すことができます。すなわち、これらの機能は世界クラスと認められるにふさわしい、最高に一貫した音質と信頼性を届けます。

製造について

すべてのOCTAVEアンプは、100%ドイツ製です。ハンドメイドによって作られた製品は、工場を出る前に完全にテストされます。使用するトランスはOCTAVE自身のカスタムメイドによって設計、製造します。OCTAVEは、専門の供給元との非常に近い協力体制を通して、そして、最新のCNC機械を用いた機械式部品の生産を組織内で行なう事をゆずりません。そのことによって非常に高品質な水準を維持します。そして最も重要な要因は、OCTAVEで働いている高い能力を持つクルー同士の熱心なチームワークです。会社のオーナー(アンドレアス・ホフマン)は、最終的にすべてのOCTAVE製品の設計・開発の責任を保持します。

サウンドについて

OCTAVEは、真空管が持つ音楽的才能と、サウンドの優位性を完全に確信しています。しかし、我々の経験は、真空管という優れた出力デバイスを採用するだけではハイファイ愛好家が求める音質のクオリティに自動的に至らないことも知っています。アンプが持つ健全な特性は、その構成要素の相互作用の結果であることを認めるからです。

これは、高度な技術力が時間を経過してもそのアンプの初期性能を維持し続けなければなりません。そのような信頼できるアンプを設計するために、あらゆる細かな部分まで最適化されなければならないことを意味します。

1. はじめに

1.2. Jubilee Preamp の説明

回路デザイン

OCTAVEでは、リファレンスプリアンプとしてJubilee Preampを設計しました。その基本設計は真空管と半導体による複合型です。

増幅段は真空管を用いて高精度のバランス回路を構成し、パワーアンプを駆動する為の高出力な電流供給には、半導体で実装される出力インピーダンスコンバータを使用します。真空管と半導体とのユニークな組合せは、Jubileeを全体的な負帰還無しで設計する事を可能としており、ゼロフィードバック設計における否定できない音の利益を届けるとともに、無帰還アンプと称される製品が、そのために必要としている補正メカニズムをも不要とします。Jubileeアンプにおいて、我々は出力ステージと電源部分のとても高い仕様要求を実現させてこの問題を解決します。そして、極めて正確な増幅を成し遂げるために、実質的に完全な動作状況をつくり出す - 補正手段の必要なしで。

ソース器材がRCAフォノ、もしくはXLR入力を通してつながれるかどうかに関係なく、Jubilee Preampは常にフルバランスの信号を出力します。ソースタイプから独立して最適なサウンドパフォーマンスを届けるのです。XLR入力には、それ自体を通過させることによる雑音または位相シフトを起こさず、自身に音の特徴を持たないステップアップトランスを用いています。ステップアップトランスは専門のレコーディングスタジオアプリケーションのために選択されるテクノロジーです。その上、基本的なグラウンドリフト回路の機能をも保持します。そして、バランス入力を通してつながれる複雑なマルチアンプシステムに対処するとき、特に重要である干渉とノイズ混入の危険性を除きます。低いインピーダンス出力は、Jubilee Preampの音質とコントロールアンプとしての柔軟性をさらに強化するためのもう一つの特徴です。半導体に基づく出力ステージだけが、長い出力ケーブルにも影響されずに低インピーダンスのパワーアンプと一体化させることができます。

真空管では、超低音や極端な高周波を犠牲にすることなくそのような出力を実現する事は不可能です。

外部電源ユニット

Jubilee Preampのためだけに開発された独立型電力供給ユニットは、プリアンプをAC電源本線から切り離すことによって、大幅にプリアンプの音質を強化します(バッテリー駆動として動作をシミュレート)。本体と独立した電力供給は、ACラインからむさまざまなノイズがプリアンプの信号処理回路へ影響することを防ぐと同時に、非常に正確で安定した電子式電圧コントロールを提供します。そして、それはこの製品の一貫したパフォーマンスを、時間の経過と関係なく確実にする方法のうちの1つの技術です。Jubilee Preampの高度な電圧管理システムは、真空管の動作が最高50,000時間にも及ぶ長寿命かつ高信頼性を実現させる為に、非常に洗練されたソフトスタート技術を取り入れています。



製造品質

精密なボールベアリングによって軸を支持されたボリュームコントロールは、フロントフェイスの中央部、磨かれたラブラドル天然石スラブの中央に置かれます。そして、厚みが2,3cmもの厚いアルミニウムパネルが側面に並んでいます。外装に使用しているアルミニウムケースは、磁気歪曲を引き起こすことなく、とても安定した低い響きを持ちます。各々のJubilee Preampは、工場出荷の前に、完全な動作、外観チェックを行い、さらに48時間の連続テストを受けます。

2. 安全予防措置

2.1. 設置の前に

電源を入れる前に、取扱い説明書をお読み下さい

アンプのスイッチを入れる前に慎重にこのマニュアルを読み通して、特定安全指示には注意を払ってください。オリジナルの製品箱は輸送時に必要となりますので、マニュアルと同様に保管しておいてください。

異常時には、コンセントから電源プラグを抜いてください

損害を受けるか故障しているアンプは決して使用しないでください。また、資格のあるエンジニアによって修理されるまで、使用することができないことを確認してください。長期間にわたってアンプを使用しない場合には、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

外側のケースを開けないでください

ケース内部は高電圧な箇所と高熱の真空管がありますので、非常に危険です。火傷または感電の危険性を避けるために、資格のある人員以外は決してケースを開けないでください。

サービスとメンテナンス

このOCTAVE装置への修理や各種メンテナンスは、資格のある人員によって行われなければなりません。修理、メンテナンスサービスを依頼する場合はご購入店か代理店へご連絡下さい。ヒューズは常に同規格のものを入れ替えてください。

シンボルの説明



正三角形の枠内の矢印シンボルによる稲妻フラッシュは、感電の危険性を示して警戒させる事を目的とします。



正三角形の枠内の感嘆符は、ユーザーに慎重な動作とメンテナンスに対して警戒させることを目的とします。

CEマークは、この電気器材が現在の欧州連合製品安全性規則に従うことを保証します。



接続の前に

Jubilee Preampは、定められたAC電力供給によって動作するように設計されています。ご使用になる場所のAC供給電圧と、アンプに記載されている動作電圧が一致しているかどうかを接続の前に確認してください。

保護クラス

Jubilee Preampは、日本仕様では保護クラスⅡの製品となっております。そのためアースコネクタはありません。その他の国では保護クラスⅠの装置(保護アース線接続時)です。感電の危険性を除外するために、ケースは電源アースと接続されなければなりません。そのために付属の電源ケーブルを使用してください。

音量調整について

電源のをON/OFFを行なう場合には、常にボリュームノブを反時計回りに回しきった状態で行なってください。ONのときにボリュームが極端に上がっていると、スピーカーとともに、あなたの聴力へダメージを及ぼす事があります。

安全の注意:真空管は熱を持ちます

動作中の真空管は非常に熱くなりますので、本体の電源を切っても、クールダウンするためにおよそ20分かかります。また、本体ケースは動作中のその熱から子供たちを保護するために設計されています。

警告: 保護グリルは取り外さないで下さい
保護グリルを取り外した事によって生じたいかなる損害にも、OCTAVEは責任を負いません。

保証について

OCTAVEは、アンプがこのマニュアルに記載されている指示に従って動かされ、サービスと修理が専門の人員によって行われる場合にのみ、安全、信頼性と装置のパフォーマンスを保証いたします。

2. 安全予防措置

2.2. 設置場所

1. 場所

OCTAVEの装置は、乾燥した屋内環境で使用されることを前提として厳しく設計されています。屋外や、湿っぽい部屋での使用はしないで下さい。

花瓶や植物の鉢などを装置の上に置くことはしないでください。装置内に水分や異物が入ってしまい故障の原因となることがあります。

もし、水分などが装置内部に入ってしまった場合は、即座に電源プラグをコンセントからはずしてください。その後、アンプを資格のあるサービス技術者によってチェックさせてください。



装置が冷たい環境から暖かい環境へと移動した場合、内部に結露が発生するかもしれません。この場合、装置が部屋の温度になじむまでアンプの電源を入れしないで下さい。

ラジエーターのような熱源となるもの、またはの直射日光が当たるような場所には装置を設置しないでください。また、可燃性の材料、ガスまたは蒸気の近くには装置を設置しないでください。粉塵の多い場所や振動を発生するようなもの、近くには装置を設置しないでください。

2. 水平で堅固な場所

OCTAVEアンプは安定した、水平な場所へ設置してください。サウンドのためにもそれは有益です。

3. 換気のいい場所

アンプの周囲に空気の流れがあるように、ある程度の空間を確保してください。もし、戸棚などに収納する場合は、周囲には各々20cm程度の間隙を確保してください。戸棚後部のパネルは、熱が溜まることを防ぐために、通気口を持たなければなりません。また、アンプを、柔らかい表面(例えばカーペットなど)に直接置かないください。

4. ハム

シールドされたトランスは、ケーブルと他のhifi構成要素(例えばCDプレーヤーまたはチューナー)との磁気干渉の影響を減らします。それでも、OCTAVE装置の上下に、直接積み重ねて他の装置を置くことは避けてください。

高感度入力回路の直近に、アンプなどの電源部を設置することは避けてください。各装置のメイントランスは、通常、筐体の左側に存在します。また、OCTAVEアンプの入力回路は、入力端子の直後に存在します。

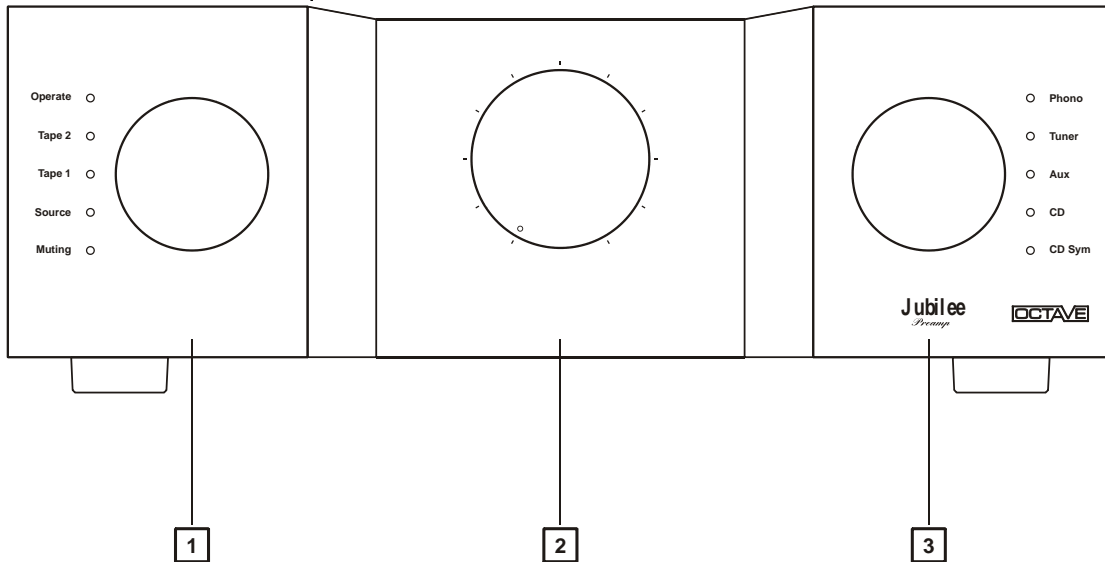
5. 外部電源装置

Jubilee外部電源装置の近くに、高感度入力回路(たとえばレコードプレーヤーやプリアンプ)を含んだ装置を設置することは、ハムの原因となることがありますので避けてください(前項参照)。

Hifi 機に
おける
電源装置

3. 操作

3.1. Jubilee Preampの前面パネル



Jubilee Preampは、真空管の寿命を延ばすためにデレイタイマー機能が備えられています。出力は電源ONから約3分間ミュートされます (muting LEDも点灯)。ゲインスイッチ⁴が使用されるときも、一時的にミュート機能が働きます (第3.2節参照)。

1 モードセレクトノブ

Operate

外部電源のスイッチが入れられたときに、このLEDが点灯します。同時に3分間程度Muting LEDが点灯しますが、この期間は音が出ません。Muting LEDが消灯したときにアンプの準備は完了しています。

Tape 2

Tape2入力端子に接続されている装置が選択されます。

Tape 1

Tape1入力端子に接続されている装置が選択されます。

Source

入力セレクトノブ³で選択された装置が選択さ

れます。このとき、選択された入力は2系統のテープ出力端子を経由して記録する事が出来ます。その場合、Tape Copyスイッチ⁶は、スイッチを切られなければなりません(第3.2章参照)

Muting

ソース器材を接続したり取りはずしたりするとき、ソース機材は、ノブをこの位置にあわせることでプリアンプ出力の接続がミュートされます。こうすることで、プリアンプの電源を切らなくても接続の変更が行なえます。

※ パワーアンプの接続は必ずアンプの電源を切った状態で行ってください。

2 ボリュームコントロール

このノブを回転させることで音量調節を行ないます。電源を入れる前には、反時計回りに回し切っておいてください(約8時の位置)。高い音圧レベルは、あなたのスピーカーと同様にあなたの聴力にダメージを及ぼす事があります。



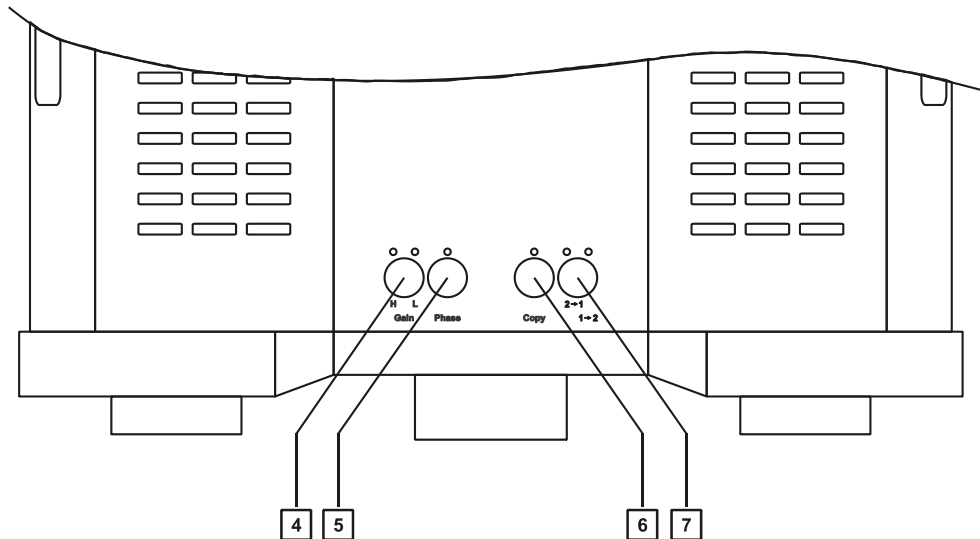
アンプの電源を
入れる前は
ボリュームを絞っ
てください

3 入力セレクトノブ (SOURCE)

入力ソース Phono、Tuner、Aux、CDとCD Sym (XLRバランス入力)を選択します(接続は10ページを参照)。

3. 操作

3.2. Jubilee Preamp の天板



4 GAIN スイッチ

アンプの増幅度を2段階(H:High L:Low)に切り替えるスイッチです。LEDは現在の増幅度を示します。

H (HIGH) ポジション:

これは、一般的なパワーアンプとスピーカーのための標準的な位置です。

L (LOW) position:

ホーンのような高効率スピーカーを使用する場合に、この位置は推奨されます。

GAIN
セレクション

GAINスイッチを切り替えるときには、一時的にミュート機能が起動して出力が停止されますが、一定時間後に出力は復帰します。

※ PHASEスイッチとGAINスイッチは同時に、また交互に連続して操作しないようご注意ください。

5 PHASE スイッチ

出力信号(RCA/XLRともに)の位相を切り替えるときに使用します。

LED on: 逆相出力

LED off: 正相出力

6 COPY スイッチ

LED on: テープコピー ON

LED off: テープコピー OFF

テープ入出力端子に接続された装置同士で信号のコピーが行なえます。

コピー方向スイッチ[7]によってコピーする方向を選びます(2→1 or 1→2)

7 コピー方向スイッチ

2 ⇒ 1 (LED 点灯)

Tape 2からTape 1へ

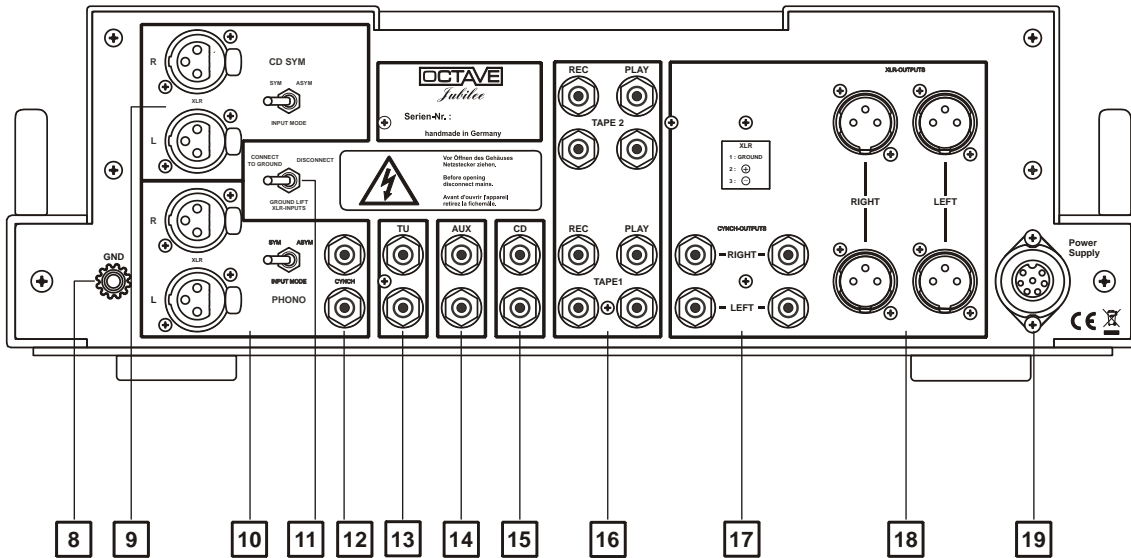
1 ⇒ 2 (LED 点灯)

Tape 1 からTape 2へ

モードセレクターknob [1]で、Tape1又は Tape2 オフテープ
を選択する事で、記録中の信号をモニターするこ
とができます。 *モニタリング*

4. 接続

4.1. Jubilee Preamp の背面パネル



一般的な知識

チャンネル
オリエンテーション

接続時の基本的な情報です:
L (LEFT): 左側のチャンネル
R (RIGHT): 右側のチャンネル

XLRピン接続

XLR端子のピンアサイン
1: GROUND
2: + (hot)
3: - (cold)

8 GND (グラウンド)

フォノ入力での
ハム音防止

プリアンプと外部のフォノイコライザとのアースケーブルを接続する為の端子です。接続するかどうかは、ノイズの出方によってケースバイケースです。

9 CD SYM (XLRバランス入力)

ラインレベルのXLRバランス入力端子です。端子はXLRですが、受ける信号をバランスで受けるかアンバランスで受けるか切り替えることができます。

10 PHONO

外部フォノイコライザからのラインレベル出力を接続する為の端子です。INPUT MODEスイッチによって、XLR入力とRCA入力を切り替えることができます。入力はXLR/RCAで平行に接続されていますので、接続できるのは1台の装置のみです。

外部フォノイコライザ経由ではなく、レコードプレーヤーを直接接続する事は出来ません。



4. 接続

4.1. Jubilee Preamp の背面パネル

11 XLR入力のグランドリフト

XLR入力のグランドを接続するか、切り離すかの切り替えスイッチです。

Switch position:

CONNECT TO GROUND

XLR端子のGNDピンと、JubileeのシャーシGNDとを接続します(7.1章参照)

Switch position: DISCONNECT

バランス操作での
グランド接続

真にバランス動作を行なう為には、XLR入力のGND端子はシャーシGNDから切り離さなければいけません。それによって、不必要なノイズとバランス動作への干渉を防ぐ事が出来ます。ソース機材が別々のアースで接地されている場合には、グラウンドループを避ける為にもこのポジションを使用しなければいけません。

※ INPUT MODEスイッチのASYM position(アンバランス)が選択されている時は、XLR入力のグランドは自動的にシャーシGNDにつながれます。

12 Phono イコライザ入力(RCA)

この入力、PHONO INPUT MODEが ASYM(アンバランス)のときに有効です。RCA入力とXLR入力は並行に配線されます。したがって、フォノイコライザとの接続はRCAかXLR端子のどちらかを使用することが出来ます。

13 Tuner 入力(RCA)

チューナーなどのラインレベル装置を接続します。

14 AUX 入力 (RCA)

ビデオデッキやDVDなどのラインレベル装置を接続します。

※ 13~15の各RCA入力はその名前に関係なく同等の機能を持っています。

15 CD 入力(RCA)

CDプレーヤーなどのラインレベル装置を接続します

16 Tape 入出力

2台のアナログ録音再生装置を接続できます。

Tape 2 REC: Tape 2への出力(録音)

Tape 2 PLAY: Tape 2からの入力(再生)

Tape 1 REC: Tape への出力(録音)

Tape 1 PLAY: Tape 1からの入力(再生)

17 RCA 出力

RCA端子によるプリアンプ出力です。2系統の同時出力が可能です。

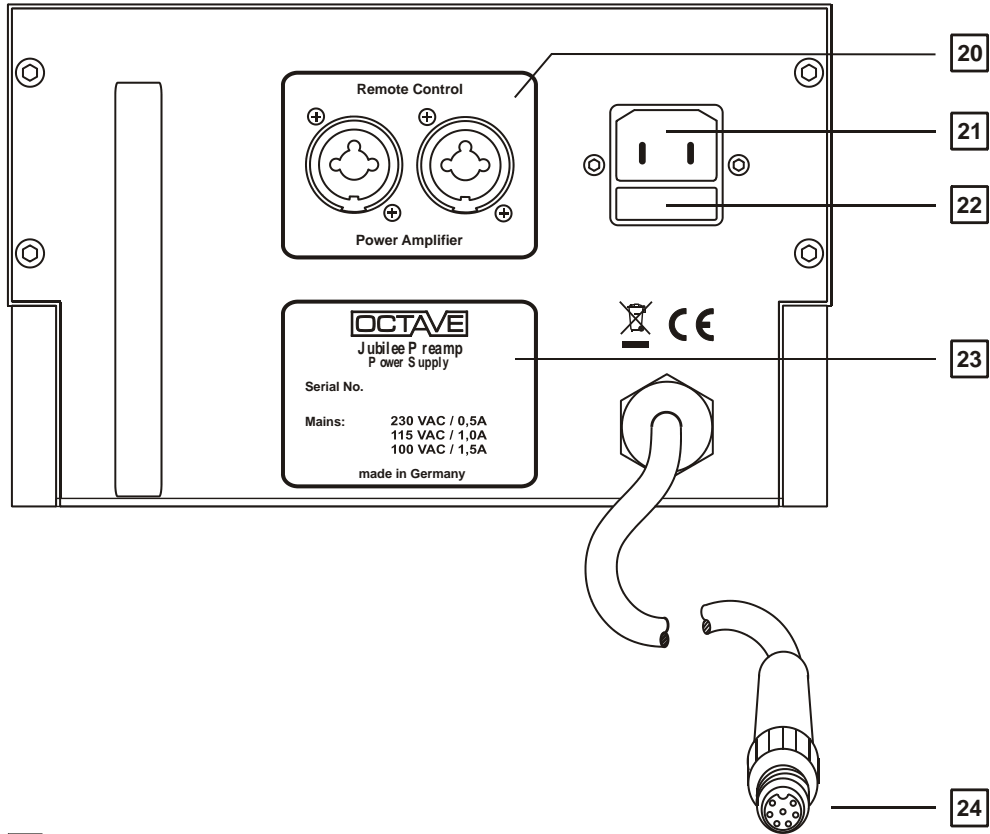
18 XLR 出力

XLR端子によるプリアンプ出力です。2系統の同時出力が可能です(HOT: 2番)。

19 外部電源との接続端子

4. 接続

4.1. Jubilee 外部電源の背面パネル



- 20** Jubilee Poweramp とのリモート端子
JUBILEE パワーアンプの電源 ON/OFF を連動させるための端子です。φ 6.3mm モノラルジャック仕様です。



電源の接続

- 21** 電源ソケット
電源コードをコンセントに接続する前に、背面に記載されている動作電圧が、お使いの AC 供給電圧と同じであることを確認してください²³。故障の原因となりますので、必ず、Jubilee Preamp 本体に専用接続ケーブル²⁴を接続してから、電源ケーブルをソケットに接続して下さい。



ヒューズの交換

- 22** ヒューズホルダー
注意: ヒューズの交換は有資格者によって行われなければなりません
ヒューズは、現在装着されているものと同タイプ同規格のものに交換しなければいけません。第 8.3 章、もしくは電源ユニットの背面パネルに詳細な情報がありません。



接続の前に電源は切っておいてください

- 24** Jubilee Preamp との専用接続ケーブル
このケーブルをプリアンプに接続する前に、スイッチを切っておいてください。接続した後にロックリングを回転させて固定します。

5. 設置

1. まず、第 2.1 節と第 2.2 節をあらかじめ読んでおいてください。

2. OCTAVE アンプをつなぐ前に、他の全てのハイファイ装置のスイッチを切ってください。これは他の装置をプリアンプに接続するとき起こりうる問題を避けるためです。

3. 第 4.1 節を参考に、CDプレーヤー、フォノイコライザー、チューナーやテープデッキなどを適切なケーブルを用いて接続してください。パワーアンプ出力ヘソース装置を接続する事はおやめください。



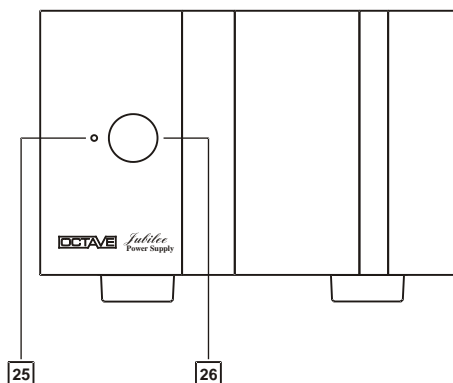
1～6の作業を行う前に、全てのハイファイ装置のスイッチを切ってください。

4. 使用するパワーアンプとJubilee Preampとを適切なケーブルで接続してください。電源ケーブルを接続する前に、電源スイッチが切られている事を確認してください。電源部との専用接続ケーブルがコネクタのロックリングできちんと固定されている事を確認してください。

5. 電源を入れる前に、ボリュームノブを反時計周りに回しきっていることを確認してください。

6. 外部電源と Jubilee 本体との間を専用接続ケーブル^[24]で接続してから^[19]、外部電源の電源ソケット^[21]に付属の電源ケーブルを接続し供給するコンセントへ接続してください。^[24]

Jubilee 外部電源 前面パネル:



7. 外部電源の電源スイッチを入れてください(スイッチ^[26]).外部電源のフロントパネルにあるLED^[25]が点灯します。

Jubilee PreampのMuting LED^[1]が消灯するまでおよそ3分間待ってください。

8. 現時点で、第 3 節で記述されている項目(GAIN/PHASE など)の設定は可能です。

9. 接続している他の装置の電源を ON にしてください。

10. 聴きたい入力装置をセレクトノブ^[3]で選択して、ボリュームを操作して通常のリスニングレベルまで音量を上げてください。

11. 慣らし期間

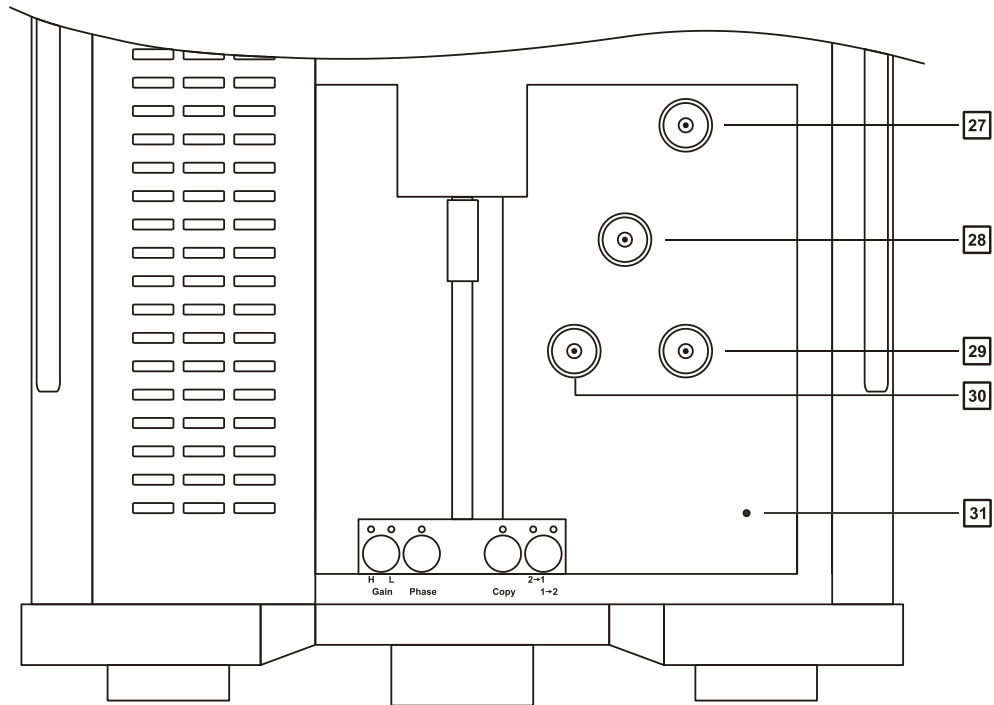
真空管を使用した装置は、そのベストな状態にたどり着くまでにおよそ3ヶ月程度はかかります。

毎日の使用はこの期間を経るために役に立ちます、しかし、ランニング時間を稼ぐ為の連続使用は必要ではありません。

12. アンプを輸送する機会のためにオリジナルの梱包箱と、のちのちの参考のために取扱説明書は保管しておいてください。

6. 真空管

6.1. 真空管レイアウト



真空管ソケット²⁷、²⁸、²⁹、³⁰
には、全てECC82を使用しています。

ECC82は、E820C、ECC802S、12AU6、5814、6189Wとしても知られています。ソケット²⁹と³⁰には、同等システムで選別されたマッチドペア(誤差5%未満)の真空管が必要となります。また、特にソケット²⁷の位置では、本物の希少な真空管E80CCの使用が許されます。この真空管を使用できるのはこの位置だけです！使用される真空管は、OCTAVEにて厳密な品質管理のもと搭載されています。OCTAVE純正の交換用真空管のみをご使用ください(6.3真空管の交換を参照)。

³¹ 自動放電LED (red)

LED 点灯

アンプの電源をOFFにしたとき、電源部内部の電力供給用コンデンサに溜められている電荷をすべて放電してしまうまで、このLEDが点灯します。



LED 消灯

電力供給用コンデンサの電荷はすべて放出されています。このとき電源ケーブルが取り外されているならば、機材内部には危険な電圧は存在しません。

6. 真空管

6.2. 一般的な情報

真空管の寿命

保護回路とソフトスタート回路のおかげで、真空管の一般的な耐用年数は平均で5年間は持続すると思われます。

真空管の耐用年数の違い

耐用年数を越えてしまった真空管は個々に交換することが可能です。すべての真空管を交換する必要はありません。

慣らし期間

新しい真空管は、自らの最高音質に至るまでにおよそ300時間を必要とするといわれています。

壊れた真空管

製造時に欠陥のある真空管は、およそ100時間程度の使用で問題が明らかになるかもしれません。したがって、テストされていない真空管の使用には慎重になるかもしれませんが、こういった真空管の問題発生でアンプに損害が生じる事は通常ありません。ただし、そのときにはスピーカーから大きな音が発生してしまうかもしれません。

6.3. 真空管の交換



1. 安全のために、メンテナンス資格のある人員だけがアンプのカバーを外して真空管を交換することが出来ます。

2. プリアンプのスイッチを切って、電源コードをコンセントから抜いて、クールダウンするために20分ほどそのままにしておいてください。



3. Jubileeの自動放電システムは、電源を切られるとコンデンサ内部の電荷を自動的に放電します。赤いLED^[31]がこの間に点灯します(第6.1節参照)。感電を避けるために、このLEDが消灯するまでケースを開けないで下さい。

4. 入力セクターノブ^[3]の上方に、アクリルのカバーとステンレスのカバーを取り外してください。

5. 古い真空管の取り外し

横方向への力をなるべくかけないようにし

て、慎重に真空管をソケットから取り外してください。

6. 新しい真空管の装着

OCTAVE純正の交換用真空管のみをご使用下さい。これはOCTAVEが自らの製品のためにテスト、選別したものです。真空管のピンが、すべて垂直になっていることを確認してください。曲がっている場合は慎重に手で修正してください。新しい真空管を装着後の電氣的な調整は必要ありません。

7. クリーニングについて

洗浄剤や接点クリーナーは真空管のソケットに使用しないでください。細いワイヤーブラシやイソプロピルアルコールを浸した歯ブラシ、圧縮空気などを使用してソケットの接点をきれいにしてください。

7. サービスノート

7.1. トラブルシューティング

アンプの電源が入らない

考えられる原因

- ◇ 外部電源から電源コードが外れている、もしくはコンセントへ正しく差し込まれていない
- ◇ 外部電源とJubilee間のケーブルが正しく接続されていない
- ◇ 外部電源の電源ヒューズが飛んでいる

対処方法

- ◇ 電源コードを正しく外部電源とコンセントの間で接続してください
- ◇ 外部電源からのDCケーブルをJubileeの背面ソケットへ正しく接続してください
- ◇ 有資格者に依頼して、同タイプ同規格のヒューズと交換してください。



プリアンプの電源は入るが、音が出ない

考えられる原因

- ◇ アンプの電源を入れた直後、もしくはゲインスイッチを操作した直後で、出力にミュートがかかっている。
- ◇ ミュート状態になっている、もしくはJubileeのボリュームが反時計方向に回しきられている。
- ◇ 入力セレクトノブ、もしくはモードセレクトノブが正しくセットされていない。
- ◇ パワーアンプやソース機器が、アイドル状態で起動していない
- ◇ インストールに関する問題：ソース器材やパワーアンプとJubilee Preampの間になんらかの問題がある

対処方法

- ◇ プリアンプが暖まり(およそ6分)、Operate LEDが点灯されるまでしばらく待ってください
- ◇ モードセレクトノブ¹でミュートを解除するか、ボリュームノブ²をゆっくり回して音量を上げてください
- ◇ 入力セレクト³とモードセレクトノブ¹の状態をチェックしてください
- ◇ パワーアンプのスイッチを入れてください。もしくはソース器材のスイッチを入れて、再生を開始してください。
- ◇ 各ケーブルと接続の確認を行ってください。

ハムと雑音

考えられる原因

- ◇ 使用しているRCAケーブルのアース側接触不良
- ◇ 使用しているRCAケーブルのHOT側接触不良
- ◇ XLR 入力に関するノイズ

対処方法

- ◇ RCA ケーブルの端子のアース側が、ジャックに対してゆるくないかを確認。ゆるいようなら曲げて密着させる。
- ◇ 別のケーブルを試してみる
- ◇ XLR 入力のグランドリフトスイッチ¹¹ (4.1 節参照) で”DISCONNECT”ポジションにしてみる。グランドを切り離す事はノイズに対して有効です。

7. サービスノート

7.1. トラブルシューティング

片方のチャンネルのみ、シーっというヒスノイズが聴こえる

考えられる原因

- ◇ こういうヒスノイズは、不完全であるか寿命を迎えたドライバー管からの合図です

対処方法

- ◇ 問題を引き起こしている真空管を交換しなければなりませんので、ご購入の販売店か、代理店へご連絡下さい。

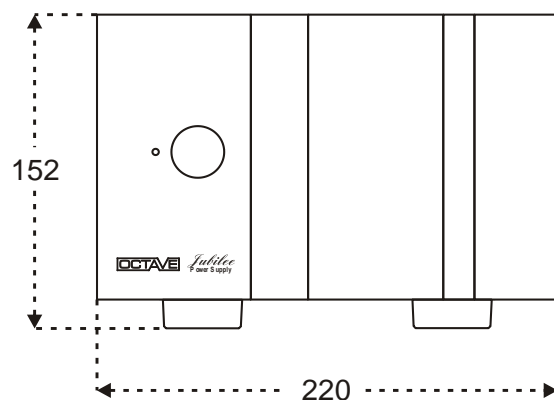
注意:

OCTAVE は、真空管に 12 ヶ月の保証を提供します。

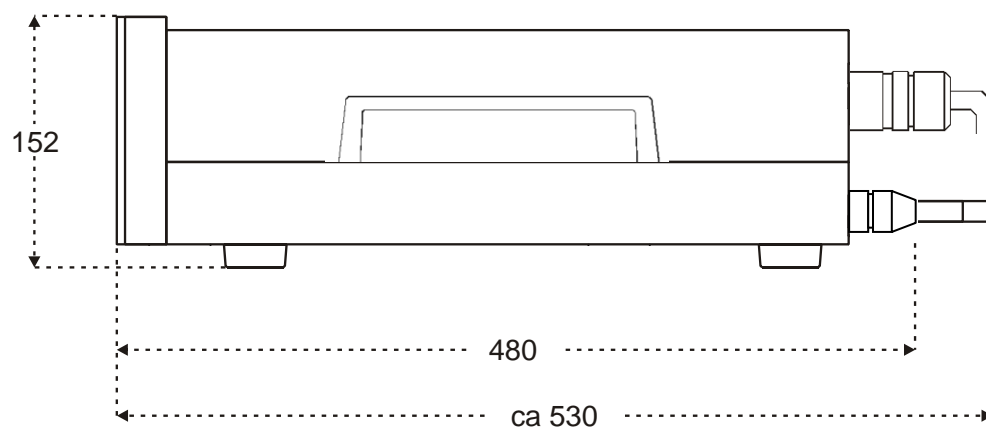
8. スペック

8.1. 外寸(mm)

外部電源 前面図



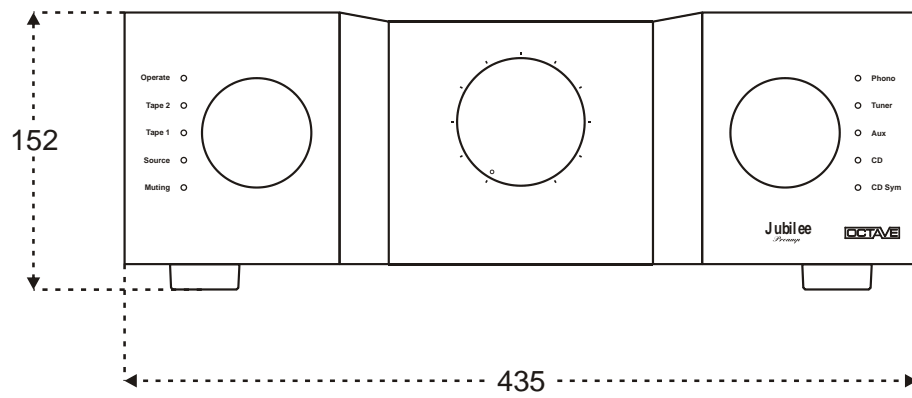
外部電源 側面図



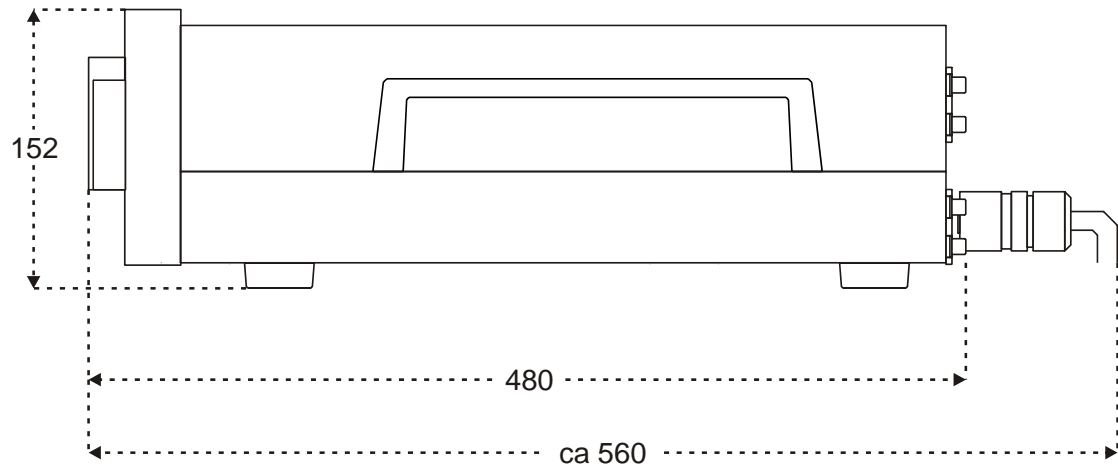
8. スペック

8.1. 外寸(mm)

Jubilee Preamp 前面図



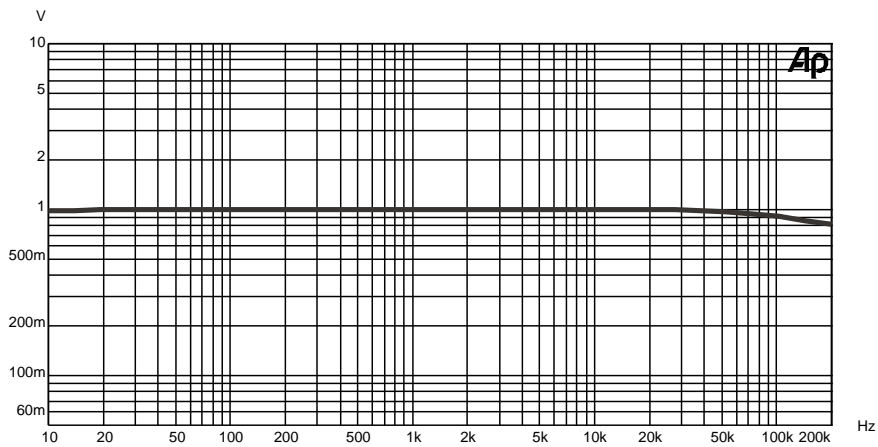
Jubilee Preamp 側面図



8. スペック

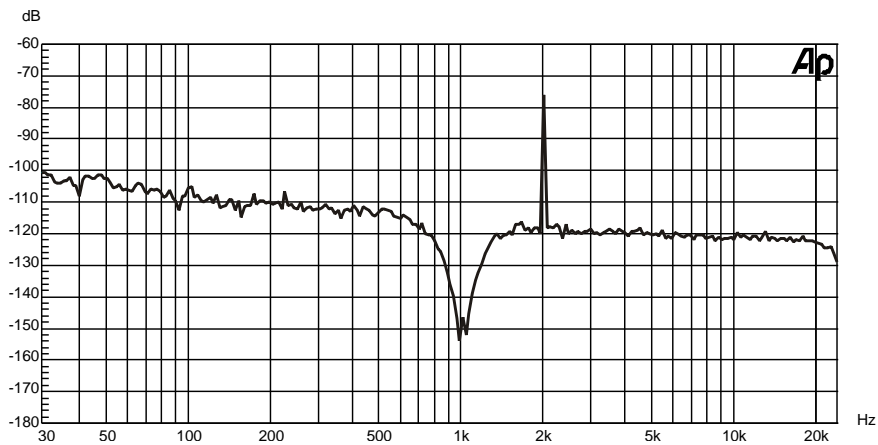
8.2. 測定グラフ

周波数レスポンス



とてもリニアな周波数レスポンスです
最低音域においてもレベルの低下がありません

ひずみ分布図



1kHz の歪曲スペクトル: 2 次高調波 k2 だけは識別できます;
50/100Hz のハムはありません。

8. スペック

8.3. 技術スペック

Jubilee Preamp (ラインレベル)

ヒューズ

5 x 20 mm 欧州標準型	230 V	0.63 A
Slow blow, type H	115 V	1 A
	100 V	1.6 A

スペック

周波数特性	3 Hz – 500 kHz	1.5 dB
全高調波歪率	0.001% @ 3 V / 7.5 k Ω	
SN比 (weighted)	90 dB (Gain High) / 98 dB (Gain Low)	
最大出力電圧	8 V	
増幅度 low/high RCA	10 dB / 17.5 dB	
増幅度 low/high XLR	16 dB / 23.5 dB	

チャンネルセパレーション	65 dB	1 kHz
クロストーク(入力端子間)	86 dB	10 kHz
クロストーク(テープ入出力端子間)	98 dB	10 kHz

入力インピーダンス RCA	100 k Ω
入力インピーダンス XLR	2 k Ω
出力インピーダンス	33 Ω (RCA)
	2 x 33 Ω balanced
ボリューム連動誤差	0.5 dB (-70 dB)

重量 (梱包箱を除く)

プリアンプ本体	17.2 kg
電源部	11.5 kg

総輸入代理店
有限会社フューレンコーディネート

フリーダイヤル
0120-004884